

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、入居者様の手書きによる私たち職員のための理念を作成していただいている。	○	社会や施設の一般的な飾り理念ではなく、入居者やご家族の意見を理念として取り入れていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者並びにご家族のご期待に応えるよう取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来園されるすべての方にお分かり頂けるよう、目にしやすい場所に入居者代表による直筆の理念が掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	定期的な施設行事に招待し、地域行事に招待され良い関係が保っている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同上		

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>シルバー110番(認知症専門相談窓口)を設け、地域での集会・認知症勉強会等を積極的に行い、認知症在宅支援に取り組んでいる。</p>	○	<p>定期的に、集団勉強会、個別相談会を開き支援対策を模索中。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者からの提案事項など、我々とまた違った目線や角度で捉えられており、非常に参考になり貴重な提案が多い。職員と共に生かせる分野から導入をしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進委員という組織が生まれて一年、徐々にその意義が施設の現場職員へも反映されてきている。</p>	○	<p>職員会議等、ケース会議においても推進委員さんが直接提案等いただける機会を調整中。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地元の民生委員さんや社協さんのご理解ご協力もあり、施設として積極的に認知症勉強会をはじめ多くの活動ができることに感謝している。</p>	○	<p>地域でのネットワーク作りをさらに強化し、いつでも支援し合える関係を作り上げたい。中規模以上の取り組みよりも、小回りの利く小規模サイズで臨機応変に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>最近になって権利擁護を学ぶ機会が増えてきたが、まだまだ現場職員すべてに浸透していない。</p>	○	<p>近隣の施設仲間と共同で、権利擁護の勉強会を自分たちでも計画していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「在宅介護の世界では虐待をする方、される方が共に被害者である」という観念から、利用者本人や家族等の心配事悩み相談窓口を設けている。</p>	○	<p>現場職員ひとり一人が相談に乗れるように、組織力を向上させたい。</p>

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設の都合での入退居はあってはならない。入退居については、管理者独自の判断ではなく現場職員リーダー並びに協力医療機関の医師等包括支援センター職員の意見のもとで判定するが、本人を含む家族との調整を最優先とし、サービスの提供と終了を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱などを設置するが、対象者が認知症であるため十分な苦情等が反映されにくいのが現状である。個別ケア(1日マンツーマンケア)を中心に時間や場所を変え、いつでもどこでも不安や不満等の意見を聴く機会を設け、1人の意見がひとつづつ反映されて来ている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者のお小遣い等の金銭的な分野は、領収書等を毎月家族に送っている。また、ご家族に対しては、個別の生活の様子や健康状態、施設新聞等を定期的に、さらに年2回は家族への便りを本人の直筆(代筆も)で発送している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等からの苦情等については、面会時の情報提供時に積極的に執り行っている。場合により相談内容を種類に分別し、ケアプランや職員会議等で取り上げていく体制である。</p>	<p>○ 運営推進委員さん等の協力の下、家族会等への出席依頼をし、施設職員がいない場を設けてご本人やご家族が推進委員と気軽に話し合える場を持ちたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に個人相談会を行っており、意思確認や職員の希望や夢、不満や意見等を聴く機会を設けており、施設運営に職員の意見等を反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常に、臨機応変な対応ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動に退職または交代等で馴染みの職員が入れ替わる場合、前もって本人や家族等に対し事前に理解を求めている。担当者が変わっても何時もの馴染みのケアが継続されるよう職員ひとり一人も配慮に努められている。</p>	

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用後は内部研修として、定期的に認知症介護支援技術を集団的に行う基礎及び専門勉強会。随時個別に行う「認知症の人のためのケアプラン」を始めとする援助技術について勉強会を行っている。また、施設外研修としては、さまざまな研修に参加をし、中でも、施設職員研修等を積極的に開催し、地域レベルの勉強会には積極的に参加ができています。</p>	○	<p>グループホーム連絡会事務局を担当していることから、現場の意見をくみ上げ、他施設との連携調整に努め、更に認知症をケアする専門職員研修として充実して行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所や他の組織が行う勉強会や行事等にも参加しており、そこで学んだ技術を施設に持ち帰り、入居者のレクリエーション等の生きがい対策に反映している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に個人相談会を行っており、意思確認や職員の希望や夢、不満や意見等を聴く機会を設けており、繁栄に徹する姿勢でいる。おもに認知症を専門に介護する過酷な現場職員には、なんらかの介護ストレスがある。不満等を聴くだけではなく、親睦旅行や食事会など積極的に執り行っている。</p>	○	<p>施設は、互助会活動等についても、可能な範囲で協力していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個人個人の長所能力・得意分野を引き出し生かせる様な行事等を企画させ、日常的にも各委員として取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>地域包括支援センターのケアマネ等を中心に、最大限に情報提供に努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族等の時間に合わせて個別相談を受けている。主に認知症介護支援方法を求めてこられる場合が多い。相談ケースの内容によっては、対象者が他施設に入所等が完了する在宅生活の間、定期的に家族に対しアドバイス等を行っている。</p>	○	<p>他の協力機関と連携して、各地区の地域住民が一人でも多く相談窓口の存在を知ってもらえるように連携していきたい。</p>

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	単なる「入居待ち・待機者」として片づけてしまうのではなく、入居までの間に必要とされる各種サービスを紹介または調整し、在宅での生活を支援している。	○	地域でのネットワーク作りをさらに強化し、いつでも支援し合える関係を作り上げたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、居室をその人らしい空間になるよう家族と共に作り上げることから準備が始まる。あらゆる協力人(担当ケアマネ、知人、友人に至るまで)最低限の情報を最大に生かした、環境からケアを行っている。	○	家族はもちろんのこと、友人も参加ができるようなケース会議も実現したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人との関係を良質に保つため、家族の許可を得て、お墓参りや寺院訪問等を交え、サービス提供範囲(3分の1)以外に人対人(3分の2)の関係を大切にされた関係を保っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一方で、家族側の対応としては、入所後の家庭内の様子の変化や介護から解放された後の情報を聞き、息子や娘として今後できること、予想されること等の助言をしながら信頼関係を深めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個別日帰り旅行には、孫や家族が参加できるよう双方の日程調整を行い、家族の距離を保っている。	○	一件でも多くの家族が中心となって企画し、プランに施設が合わせられるように努力したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	マンツーマンケア日には、実家に里帰りし昼食をはさんで家族の絆の支援。または、同級会に職員が付き添って馴染みの関係を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同で畑仕事や炊事洗濯を行っているうち、自然に利用者同士でかばい合い、励まし合ったりできる場面を提供している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設への入所・入院で当施設を退居されても、対象者の馴染みの利用者を連れ、面会等差し入れを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のため、本人の思いや暮らしの希望は、日によって二転三転し、同じことを継続するには大変難しい部分もあるが、本人のその時の希望を優先的に考えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	両親・幼児期・青年期・結婚・出産・社会や地域との関係等認知症発病時の本人や家族等の苦悩、入居に至る経過の把握には、一番気をつけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個人個人の生活に障害が出ない程度に、施設が入居者の生活サイクルに合わせている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設が「入居者」として見るのではなく、利用者本位に生活支援が提供できるセンター方式を三年前より導入し、家族の希望やひらめきがそのままケアに生かされる環境下にある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対象者の変化に伴い、ケアプランの変更等随時行っている。	○	定期的な、または随時必要な時(心理的に、環境的に変化が生じた場合)、緊急を要するような変化があった時にケース会議を開いてはいるが、日ごろの気づきやひらめき等をケアプランに生かされるように、進行状況の報告や課題等をいつでも検討できる体制をつくりを目指したい。ケアマネにも即提供できる様な柔軟な体制で望みたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有には、ケース会議や職員会議及びお知らせやケアの変更時並びに気づきやひらめき等誰もが目にできる業務日誌に掲載し、確認した者からは印をもらっている。ケアプランには、個別記録からの情報も有力なヒントとなっており、継続プランや変更見直し時の情報を共通できるよう努めている。	○	できれば、介護等の場で、ひらめき提案事項に対し、職員一人一人の感想がコメントできれば更に良いと考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等が訪問されても、食事や宿泊等の希望を受け付け、対象者等家族がいつでも安心できる様に配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	盲導犬の施設訪問や、各種ボランティア、教育機関からの児童の受け入れと訪問など、地域から孤立しないよう積極的に支援している。	○	本人あるいはご家族より、公表の同意を得た施設新聞等を地域に回覧できるように取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームのため、他の介護サービスは活用できない。しかし、地元主催のふれあいサロン・祭り等の行事に、施設も実行委員として参加協力できている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホームのため、地域包括とは協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、主治医の廻診があり、適切な医療を受けて頂けることが維持できている。		

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	必要時以外においても、入居者がいつでも気軽に相談できる関係を築きたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	主治医を中心に、訪問看護師との連絡調整を行っている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		ご家族と職員が一丸となって、主治医の指導のもと取り組んでいる。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		事業所のできないことを家族や職員も承諾し、今後予想されるであろう急変時の体制や、職員の役割分担を決めている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		当施設も、受け入れ先の施設等の担当者に対し、情報交換は勿論のこと、対象者にとって最もふさわしい条件で受け入れ出来るよう連絡を密に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に行っている職員研修にて、プライバシーの保護、入浴、排泄時等の指示声掛け誘導内容の訓練を行っている。一方で、プライベートな言語や言葉掛についても「失礼にあたらないようしよう」と職員同士でお互いに注意仕合を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	場所や時間を変え、また環境を変え、本人の一番いい状態の中でゆっくりと選択決定ができるようにしている。	○ 施設の一方的な規制や縛りの中で生活していれば、個々の入居者は希望やサインを表現できない。職員もニーズが見えない。施設の生活サイクルは、入居者の生活サイクルに応じて臨機応変に対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一方的な規制や縛りの中で生活するのではなく、また、最後まで職員が過剰な支援を行い、対象者の力を奪ってしまうようなケアではなく、必要な時に最低限必要な指示や誘導を行い、その人らしい生き方ができる様に支援している。	○ 1ユニット9名であるが、さらに細分化を図るためいくつかの小グループを作り希望が出せやすい環境を作っている。さらに、マンツーマンで1日をその人とだけ過ごす日を作り、愚痴や不満なども出せやすい環境づくりに励んでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類や小物類については、職員の好みで決定されるのではなく、本人や家族が決定できるように支援している。美理容については、美容組合の協力を得て、毎月、馴染みの美容師が訪問して下さっており、自分の希望を叶えていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に失敗すればやり直せばいい。別にその時間に食事を始めなくてはならないことはない。調理ができなくても、味見ができる。	○ 自立支援の場であるから、自分が食べたものは自分で始末する。という押しつけがましい解釈や考えを捨てると、利用者同士がかばい合い、お互いが助け合って配膳下膳をされる姿が見える。その時に必要な最低限の支援に留め、後は必要に応じて指示声掛け誘導のみ。あとは利用者同士が「自分達も何かしなければ」。生きていかなければ という気持ちが生まれている方もいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	精神的に医療的に問題がなければ、基本的に嗜好に対し当施設としては支援は行っていないし、管理する必要もないと考える。生活に支障がある場合でも、常に適量を日常的に楽しんでいただいている。	○ 本人が好む嗜好品等買い物に出かけられるとき、ついでに職員もご一緒させていただいております。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ギリギリの限界まで、おむつ等の着用時期を遅らせ、やむを得ず着用したとしても季節や温度によって大中小のおむつ類を、その時その時に最も適したおむつ類を使い分け使用していただいている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	施設があらかじめ用意する入浴日のほか、自由浴として基本的に常識の範囲内で、いつでも入浴は可能である。畑仕事等で汗をかいた後、いつでも入浴を楽しめることができる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人が他人に気を使わずして安心できる環境づくりを、施設の一方的な家具等の配置をすることなく、家族の協力で作り上げられている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	マンツーマンで1日をその人とだけ過ごす日を利用し、前もって聞いておいた希望のコースを当日に実現させている。個別の力を十分発揮していただくため別棟の台所を借り切り、副食のメイン一品クッキングや、手作り喫茶のおはぎ作りなど毎月取り組んでいる。	○	近隣の婦人会の皆さんにも声掛けを行い、調理等に参加して頂けるように検討している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでは、金銭管理等身の回りの管理に支援を必要とされる方が多い。買い物などでのレジ等では、計算ができなくとも、入居者が代金を店員に支払い、おつりを受け取ることができる。職員はその一連の動作を側で支援している。	○	スーパー等は、お客が多くゆっくりとお金のやり取りが支援できにくいので、月に一度施設内で入居者に財布を手渡し、実際に駄菓子など買っていただく機会を設けている。※買い物とは、入居者全員の方が実際の通貨(お小遣い)を使用し、疑似的に「お金を使いおつりをもらう」という場をレクとして再現しているもので、施設が実際にお金を受け取っているわけではない。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、喫茶、散歩、畑仕事等希望に沿って実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	同級会への参加支援、墓参り、故郷でのお祭りなど、参加できるよう支援を行っており、日帰り旅行等には、家族やお孫さんも一緒に参加ができるよう臨機応変に対応支援を行っている。また、お葬式などについても家族等の承諾が得られれば、参列していただけるよう支援している。	○	結婚式や、祖父母参観日にも支援してみたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望は勿論のこと、頻度や内容等を把握しながら、様子を見ながら職員側からも積極的に働きかけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた家族は、利用者と職員が作った食事を一緒に食べている。また、妹さんが積極的に訪問され、居室の整理や身の回りのお世話をしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では、身体拘束はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員も玄関等の施錠に関し弊害を理解している。しかし、一部の入居者は、意思疎通不能の認知症の方が玄関戸を外したり、昼夜・雨・雪問わず外へ出て行ってしまうため、手薄な時間帯などやむを得ず一時的に玄関を施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、リーダー業務として、所在確認、様子観察等を日課とするため、安全には十分注意を行っている。夜間についても、個人によって様子観察を行う頻度は違うが、定期的に観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	漂白剤等の毒物の管理は行っているが、必要なものは誰でも手の届く場所にある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員等が疑似的に行方不明となり、連絡網を活用し一斉搜索訓練を行っている。また、夜間を想定した搜索訓練を年1回実施している。	○	地元の消防団や、民生委員さんの協力も得たい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力の下、心臓マッサージ等の救急救命訓練を受けている。また、内部研修にて、定期的に事故発生時の対応時の勉強会を行っている。	○	順番に、救命訓練を受けられるように準備を行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	認知症の高齢者のため、入居者自身が避難する方法を身につけるには大変難しいが、地域の自衛消防団の協力が得られる態勢にある。	○	非常食を三日分貯蔵している。救急の日(9月9日)には、非常食(水を入れれば御飯ができるアルファー米)をみんなで食べる予定にしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特に、退院後の受け入れ状態、体力や主疾患等の対応において、施設の出来る事・出来ない事をしっかりと家族に伝え、出来ない場合の対応を家族と話し合いが持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	随時、非常の場合は、主治医の指導を仰ぎ、必要であれば受診へ。また、通常は、臨時のケース会議を開き対応を検討し、その結果を日誌等に記載、確認した職員には、印をつけてもらい徹底して共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等は随時日誌に記録するのは勿論のこと、職員全員が把握できるように専用ボードに記入している。また、内服薬変更によって生じるであろう体調等の変化も報告・記録・確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく乳酸菌等を多く含んだ食品するなど、薬には頼らないようにしている。また、やむを得ず下剤等を服用しなければならぬケースについては、様子を見ながら主治医と相談し、量を調整している。内部研修会で取り上げ、看護師の指導や協力が得られる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている。看護師等の指導や協力が得られている。		

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に給食委員会を設け、随時、栄養士の協力指導のもとでカロリー計算や栄養バランスをはじめ、季節に応じた旬の素材を生かした料理を提供している。	○	月に一度の給食委員会を開き、栄養士を交えての相談会を維持していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策委員を中心に内部研修会を開き、感染症マニュアルに沿った対応が整備されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に、検便検査を行っている。また、台所の管理や食堂等の管理についても、感染症マニュアルに沿った対応を実行している。内外研修にも積極的に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	環境美化委員を中心に、季節を感じさせる草花を入居者と共に育てている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「施設」という概念ではなく、あくまでも在宅という概念であるため、環境美化委員を中心に到る所に自由な生活環境を演出している。また、月間行事委員を中心とした季節ごとの風物詩をみんなで作り上げ自由な空間を演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを中心に、各コーナーにソファ等を配置し、気の合う者同士が、一人一人がそれぞれにいる場所を支援している。		

グループホームちくりんえん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設においても、居室は、その方とご家族等が作り上げ、その人にとって最も必要な「自分だけの場所」を完成していただいている。家具等についても、長年使っていた馴染みのものを使用していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各季節に応じ細やかな換気や温度(その人が適温と感じられる温度)調整を機械に任せず手動で行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングなどの広い場所には、机等を一か所に集中するのではなく、ところどころに配置をし、それを持って伝いながら移動ができるように配置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過剰な行き過ぎた支援をするのではなく、本人の力に応じて必要な量を必要な時に支援するように努めている。調理場面では、鍋が魚が焦けてもいい。味が濃くてもいい。食べられなければもう一度似たような物を作りなおせばいい。調理に参加できなくても味見ができる。完全主義ではない支援を大切にしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者自身の手によって環境が保たれている。花を植え肥料をやり、畑を耕し草を引く。自分の生活は自分で。必要な場面のみを支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームちくりんえん

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、マンツーマンデイ 内容 入居者一人一人の状況等を基に判断し、対象者の夢をかなえる日・担当職員またはその時に一番息の合った職員と、その人とだけ関わられる特別な日として毎月1～2回設置している。ご家族の協力の下、実家に帰り、墓参りや果物の収穫などを行い、また、孫や友人に会える時間を支援。さらには、同級会への出席の支援等行っている。今後も引き続き、ご家族様に対しても、満足していただけるような取り組みを行っていききたい。

2、シルバー110 ①地元の認知症を抱える家族等に無料で相談できる窓口を設置。必要な場合には市の担当者等に要請し、相談会を実施。
②地元住民で認知症に関心のある方を対象に、認知症の勉強会を実施。基本コースと専門コースとがあり、両コース終了者には、当法人が認定する「認知症専門地域委員」としてホットラインで確立し地域で活動していただき、「施設に入ることなく馴染みの環境で生活できるように」をテーマに地域各種団体のご理解とご協力のもとで活動を行っている。

3、運営推進委員会 地元の高齢者を対象にした「認知症予防対策」の一環として、平成19年6月に公民館をお借りし、運営推進委員主催のコンサートを実施、沢山の住民でにぎわった。